

川辺川の流水型ダムを知ろう

「新たな流水型ダムの事業の方向性・進捗を確認する仕組み」がスタート

令和2年7月豪雨後、蒲島郁夫知事は、「現在の民意」は、「命と環境の両立」と受け止め、「緑の流域治水」の一つとして「新たな流水型ダム」を国土交通省に求めました。

「新たな流水型ダム」が、住民の安全・安心を最大化するものであるとともに、球磨川・川辺川の環境に極限まで配慮し、清流を守るものとして整備が進められてい

るのか。熊本県は、県や流域市町村だけでなく、流域住民の皆様も一体となって、事業の方向性や進捗を確認する仕組みをスタートしました。

昨年12月25日に第1回会議を開き、流水型ダムの構造や環境影響評価について、現時点での検討および進捗状況などを流域住民の皆様と確認しました。

流水型ダムの位置



流水型ダムの概要

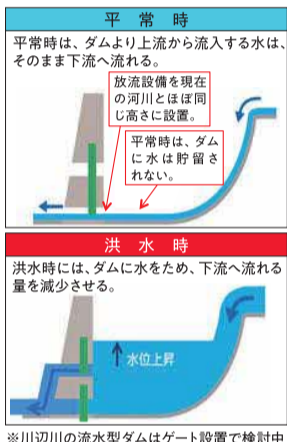
ダム形式	重力式コンクリートダム
ダム高	107.5m
堤頂長	約300m
総貯水容量	約1億3000万㎡
湛水面積	3.91km ²

流水型ダムは、球磨川水系河川整備計画に位置付けられ、相良村四浦に建設される予定です。

流水型ダムの構造や環境影響評価についての検討および進捗状況 (会議での説明資料の一部を県で抜粋(一部加工)し、掲載しています)

流水型ダムの特徴とは

流水型ダム (他ダムの事例)



益田川ダム(島根県)

※川辺川の流水型ダムはゲート設置で検討中

貯留型ダム (他ダムの事例)



鶴田ダム(鹿児島県)

流水型ダムの環境影響評価の状況

法と同等の環境影響評価

昨年11月、「川辺川の流水型ダムに関する環境影響評価方法レポート」が公表されました。

流水型ダムの工事(試験湛水含む)、供用等に伴う水環境や生態系、景観等への環境影響について、今後、調査・予測・評価の結果、環境保全措置が示されていきます。

環境影響評価の流れ (説明資料P28)



環境影響評価項目 (説明資料P25)



流水型ダムの主な施設 (他ダムの事例)

治水機能を確保し環境に配慮



辰巳ダム(石川県)

1 常用洪水吐き

一定規模を超える洪水時に洪水調節を行うための施設

2 河床部放流設備

平常時や一定規模の洪水時まで河川の水や土砂を流すための施設

3 減勢工

洪水調節に伴うダム洪水調節地の水位の上昇により、ダムからの放流水の力が非常に大きくなるため、放流水の力を弱める働きをする施設

4 副ダム

減勢工の形式の一つで、ダムの下流側に設けられた低いダム

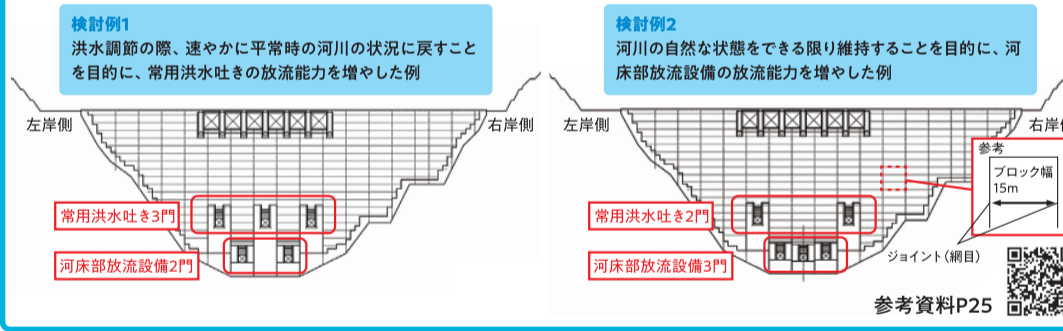
説明資料P11

流水型ダムの構造の主な検討状況

環境への影響 最小化へ流水型ダムの特徴を最大限に活かす検討

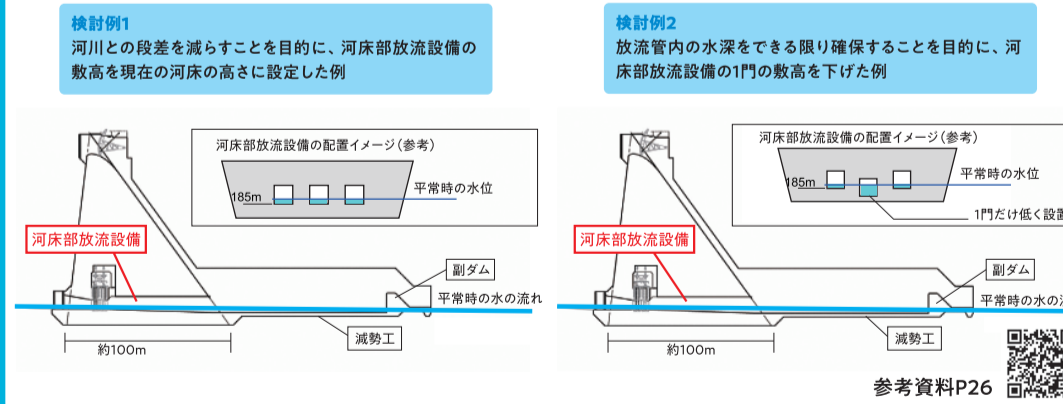
設計の着眼点 (説明資料P12)

放流設備の配置の検討例



参考資料P25

河床部放流設備の配置の検討例



参考資料P26

会議での構成員からの意見など (発言の一部です)

- 下部の放流口について、魚が遡上できるように、よく検討してほしい
- 水の濁りの原因となっている山から川へ流入する土砂の対策をお願いする
- 流水型ダム事業に当たっては水質の保全をお願いする
- 五木村、相良村の思いをしっかりと受け止めてほしい
- 「緑の流域治水」として、堆積土砂の撤去や山の対策なども進めてほしい

議事録

「新たな流水型ダムの事業の方向性・進捗を確認する仕組み」の構成員

熊本県、国土交通省九州地方整備局、球磨川流域市町村、球磨川流域住民、有識者 計35名

構成員名簿

会議資料、議事録は県のホームページをご覧ください。 [新たな流水型ダム 仕組み](#) [検索](#) [問い合わせ先:熊本県球磨川流域復興局 ☎096\(333\)2610](#)

※スマートフォンなどでQRコードを読み取り、表示されるURLにアクセスすることで、該当する資料が表示されます。ただし、機種によっては各資料の1ページ目が表示される場合があります。その際は、上記記載のページをご覧くださいませようお願いします。